

平成23年3月30日

2011年台北展

<さらに規模拡大>

今回の台北展は東北関東大震災が発生してまだ6日目の開催ということで、来場者の会話は先ずその地震のことから始まるような状況だった。地震の影響はブリヂストンサイクルなど日本企業の参観中止やドイツ、オランダなどの欧米諸国からの来場者の減少という形で現れていた。福島原発から漏れ出した放射能が台湾まで流れてくるのではないかという不安から台湾訪問を取り止めた欧州のバイヤーが多かったようだ。欧州から遥か彼方のアジアを見れば、台湾は日本のすぐ隣にあるように思えたようである。また、欧米の政府が訪台の自粛を働きかけたという話も耳に入った。



前回からの1、4、5、6階フロアでの展示のほかに、今回は屋外での展示も加えられ、この展示会の規模は年々拡大する一方である。来場者の関心の的は部品メーカ

一の集まった1階と完成車メーカーの4階だったが、その4階には COLIPED の共同ブースのほか、フランス館やタイのバンコクサイクル、5階には中国パビリオンなど国際色豊かな展示となっていた。

国内分の参観者数は未発表のため、全体の参観者数は不明だが、出展企業は前年比 6.0%増の 948 社、ブース数は同 1.4%増の 3,060 で過去最大規模となり、台湾自転車業界の隆盛ぶりを表しているということだろう。

＜電動アシストユニット増加＞

完成車最大手のジャイアントは中華民国建国 100 年祈念限定モデルのロードバイク「TCR Advanced SL100 LTD」を展示していた以外は、特に前年の展示製品の方向性に大きな変化は見られなかった。

フレームの素材は鉄、クロモリなどからアルミ、そしてカーボンへと進化し、軽量化と強度を図り、デザインも様々に工夫され、構成部品の性能、機能は向上した結果、ここ数年大きな変化はなく、自転車は極端に言えば、行き着くところまで行き着いた感もある。そのような状況のなか、今回の台北展の大きな注目点の一つとして挙げられるのは、電動アシスト自転車のユニットだろう。

今回開催前から特に注目を浴びていたのは、大手自動車関連メーカーの BOSCH のユニットである。同社は自社ブースを設けていなかったが、その製品はメリダなど既に何社かの完成車に装着されて見ることが出来た。同社参入の市場に与える影響は小さくないと思われる。同社の 2011 年の販売計画は 13 メーカーの 16 ブランドに対し、60,000 台のようだが、既に一部サプライヤーから 15,000 台の確定オーダーが入っているという話も聞かれた。台北展公式ガイドによると、同社はマーケットシェア 20%以上を目指し、また、現在はユニット(バッテリーパック、ディスプレイ、駆動部、充電器)はフランスで生産しているが、年内には中国の同社蘇州工場でも大陸向けに生産を始め、中国電動車メーカーと共同で、重視する中国市場に参入するということである。



BOSCH製アシストユニットを装着

ある業界人は、「日本と欧州のアシストユニットの市場規模は合わせて約75～80万台弱、パナソニック、サンヨー、ヤマハ等の日本のメーカーの2010年の大手日本のメーカーの生産台数は合せて約58万台と推測されるので、日本メーカーのシェアは日本、欧州では70%程度と考えられる。ただ、中国製のユニットも最近大きく伸びてきている模様だ」と話していた。

今回は上記三社以外にシマノの電動ユニットやサンスター技研のユニットもいくつかの完成車メーカーの製品に装着され来場者の関心を集めていた。



シマノ製アシストユニット装着の完成車



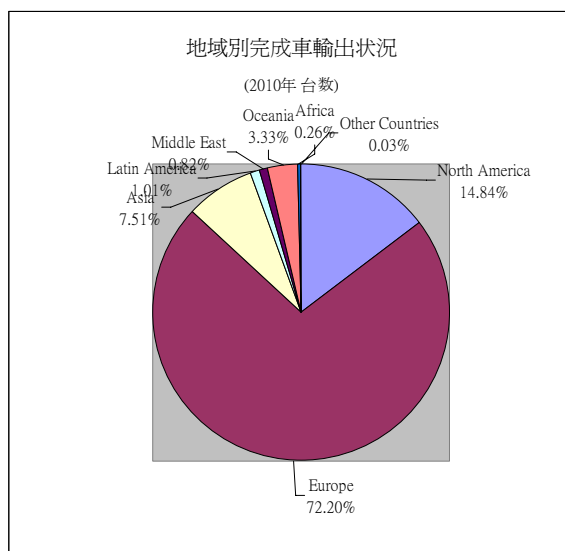
サンスター技研のユニットを装着

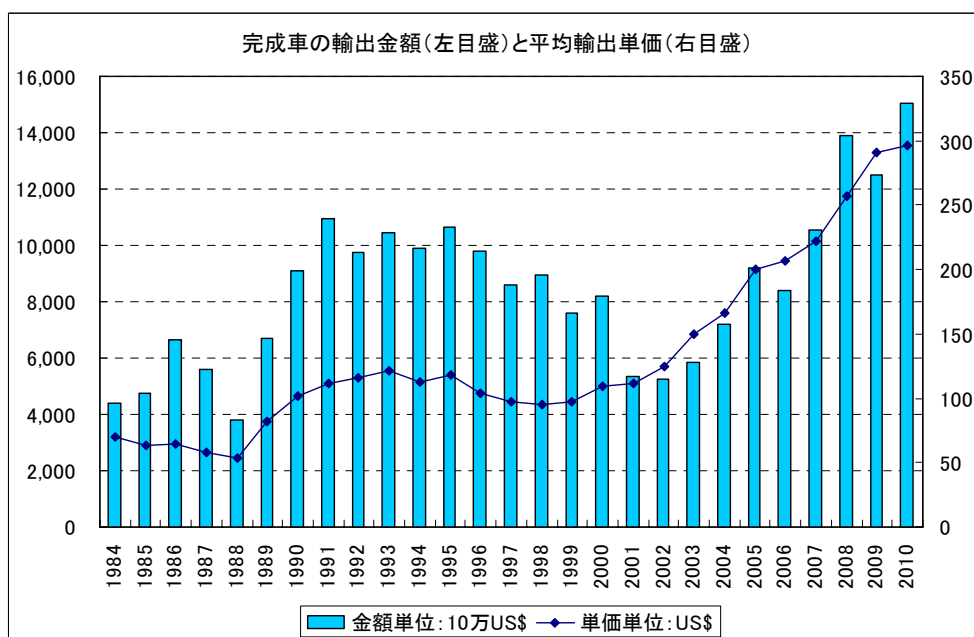
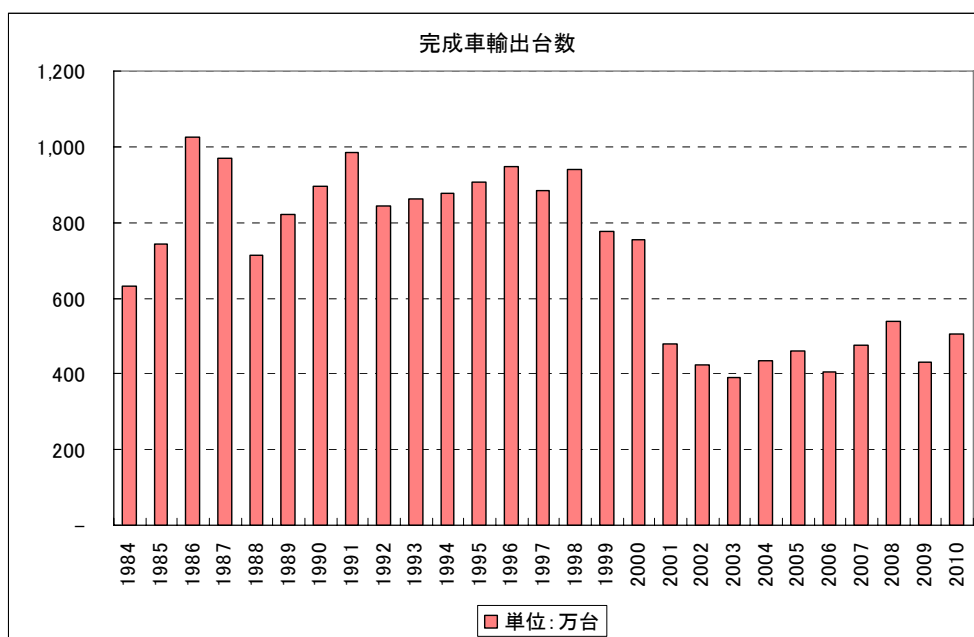
欧米や日本でも電動アシスト自転車が急速に販売台数を伸ばしており、この展示会ではアシストユニットが単品として、または完成車に装着され、展示が増加していた。現在の自転車業界が大きな転換期に入っていることを認識させる今年の台北展だった。

<台湾業界近況>

台湾の2010年の輸出状況は、前年比17.9%増の506万9,915台、金額は同20.2%増の15億270万USドル、単価は同2%増の296.4ドルだった。台湾輸出業同業公会のデータを基にして作成した下記のグラフに現れているとおり、非常に好調な状況を呈している。

2011年1月からは中台間のFTAであるECFA(两岸経済協力枠組み協定)が発効し、一部の車種を除き完成車、全ての部品の関税率が撤廃された。現在の台湾の輸出先は欧州向けが多く、昨年の68.8%から今年は72.2%まで上昇したが(*)、今後は欧州に加えて、上海、北京など大陸都市部の所得が急増しつつある消費者向けにハイエンドの製品の輸出が増加する可能性があるものと台湾自転車業界では期待している。(※:金額ベースで見ると、欧州向けは57%、北米向けが24.2%となる)





<展覧会概況>

展覧会名: 2011 台北国際自転車展覧会 (TAIPEI CYCLE)

会 期: 2011年3月16日(水)~19日(土) 4日間

展示時間: 17~19日 9:00~18:00、20日 9:00~17:00

場 所: 台北世界貿易中心南港展覧館(1F、4F、5F、6F、屋外)

主 催: 中華民國對外貿易發展協會(TAITRA)

共 催: 台湾区自転車輸出業同業公会(TBEA)、

台湾区車輛工業同業公会、台湾区ゴム工業同業公会
出展企業数: 948 社(前年 894 社、前年比 6.0%増)
(国内 708 社 前年比 4.4%増、海外 240 社 同 11.1%増)
ブ ー ス: 3,060(前年 3,018、前年比 1.4%増)
(国内 2,314 前年比 0.7%増、海外 746 同 3.8%増)
参観者数: 未発表 前年比 %
(国内分 未発表 前年比 %、海外分 5,701 人 前年比 10.5%増)
(TAITRA 発表数値)



会場入口に展示された新製品コンペ入賞作品



大陸メーカーの展示エリア



ハンガリーのメーカーもアシスト車を出展
フレーム等は中国製、ユニットはヤマハ



台湾永祺車業の電動アシスト自転車



BMXで有名な桑原も出展



CBA隨顧問が講演

以 上

(上海事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

